



第319号
 編集責任 筑波大学新聞
 編集代表 福原直樹
 TEL: 029(853)2040-6699
 E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
 月刊
 発行所 筑波大学
 茨城県つくば市天王台1-1-1

紙面から

みんラポ 高齢者の声製品開発に活用 2
 絶対音感 「笑み」に圧倒される公演 5
 ラグビー 全国大学選手権 初優勝逃す 8
 柔道 永瀬 グランドスラム東京連覇 9
 ノーベル財団理事長講演 永田学長と対談 10
 漂流する教室 主体的な学びを支援 11

ミニ特集 3
 旅立つ アスリートたち

特集 6,7
 筑波大生 「支持政党なし」77%

ノーベル財団理事長単独インタビュー 「独創性を持って」

賞金額引き上げ視野に

筑波大学に1月、講演で訪れたノーベル財団理事長のカール・ヘンリック・ヘルディン氏は、講演に先立ち本紙の単独取材に応じた。この中で理事長は、今後のノーベル賞の課題として「賞の『価値』を上げる」ことを指摘。近年、減額された賞金を元のレベルに戻す意向を示した。また過去、賞にふさわしくない受賞者がいたことを認め、「適切な選考を行って賞の信頼性を守りたい」と語った。理事長はノーベル賞を目指す筑波大の学生、研究者に「独創性を持ってほしい」と話している。(福原直樹)本紙編集代表、平嶋健人(社会学類3年、佐々木優二(知識情報・図書館学類3年、10面に発言内容と関連記事))



ヘルディン理事長

ノーベル賞は資金難から2012年、賞金が1000万クローナ(約1億4500万円)から800万クローナに下げられた。これについて理事長は、「ノーベル賞は資金難から2012年、賞金が1000万クローナ(約1億4500万円)から800万クローナに下げられた。これについて理事長は、適切な授賞があったと指摘。その後、同手続の非人間的なD.D.Tの毒性が問題になったため、「最も賞にふさわしい人間を慎重に選ぶことが最優先課題」と話した。同賞では受賞対象の業績から実際の受賞まで数年かかる場合があるが、理事長によると、これも慎重な審査が一因の場合がある。

同賞は物理学など6部門。理事長によると各部門の選考委員会(数人で構成)が毎年、世界の有識者1000〜数千人に推薦状を送付。通常、数百件の返答があり、委員会はこれの中から候補者を絞る。この後、委員会はスウェーデン王立科学アカデミーなどにこれを報告。そこで議論で決定するが、この間の選考経緯は受賞から50年間公開されない。

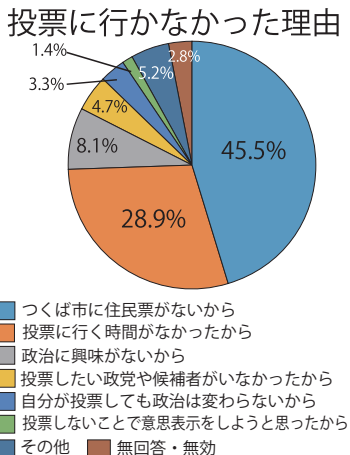
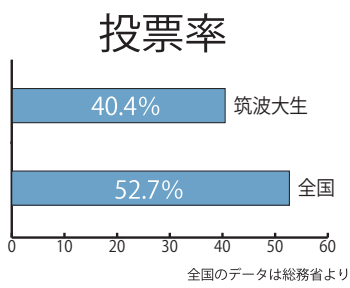
この審査の「秘密性」について理事長は、「外部からの圧力に屈せず、独立した審査を行うために重要だ」と指摘。また、賞の選考委員については「利益相反や汚職行為を禁ずる規定がある」として、選考過程の公正さを強調した。一方で、ノーベル平和賞の選考



1月17-18日に、大学入試センター試験が行われた。受験生は緊張した面持ちで、試験開始の合図を待っていた。今こそ、努力の成果を全力でぶつける時。あこがれの大学生活まで、もうひと頑張りだ。(原啓一郎=社会学類4年、写真・小野憲司=同1年)

筑波大生の投票率40%

衆院選 全国平均12ポイント下回る 本紙調査



本紙は1月、筑波大生454人を対象に、昨年12月の衆議院議員総選挙や政治意識に関するアンケート調査を実施した。その結果、選挙権を持つ筑波大生(356人)で投票に行ったのは40.4%だった。総務省の調査によると投票率の全国平均は52.7%で戦後最低だったが、更にその値を大きく下回っている。無投票は「つくば市に住居がない」が大きな理由で、これらの学生の過半数が不在者投票制度(2票)を知らなかった。一方、「周囲の

筑波大生と政治について話をした。この結果について日本政治が専門の竹中佳彦教授(人社系)は、「(不在者投票は)若干手間がかかる。更に今回の衆院選は自民党が圧倒的に強く、野党の力が弱い『一強多弱』。安倍内閣継続が容易に見込めたため、わざわざ制度を利用してまで投票する必要を感じなかったのだ」と分析した。

調査の際に追加取材への協力を申し出た学生3人で、1月15日に実施した座談会でも「制度利用の手続きが煩雑すぎる」「若者の自民党への対抗」が36.8%と最多で、「何も望まない」15.2%、「野党再編」は11.2%だった。(添島香苗)生物学類2年、6,7面に調査結果と関連特集

不在者投票制度(2票)の仕事や旅行などで、選挙期間中に選挙人名簿登録地以外の市町村に滞在している人が、滞在先から地元の選挙区に投票できる制度。

三井住友カードと提携し、筑波大学関係者を対象に4月から始まるクレジットカード事業の準備が進んでいる。カードの名称は「筑波大学校友会カード」(写真)。通常のクレジットカードのサービスのほか電子マネーも利用できる。現在、新入生や在学中に案内するとともに、カード利用特典の協力店舗を募っている。

校友会カードを利用できるのは、筑波大の在学生のほかに卒業生、教職員など。協力店舗でカードを利用した場合は提示された場合、割引などの特典が受けられる。協力店舗は筑波大周辺の商業施設や不動産会社、飲食店など50以上になる見通しだ。事業を進める筑波大連携・渉外室の古山陽一室長は「学生生活のさまざまな場面に想定し、幅広い種類の店舗に特典への協力を依頼している」と話す。

連携・渉外室は、2月上旬にカードの発行を開始、4月から事業を始める予定だ。また、3月までに提携先の三井住友銀行のATMを学内に1台設置する。古山室長は「最初の5年間で会員数4000人が目標。多くの人にカードを使ってい」と話した。(添島香苗)

筑波大学 University of Tsukuba
 4930 0123 4567 8901
 VISA
 1500 0000000000000000

クレジットカード 4月から

大学周辺の店舗で利用特典

三井住友カードと提携し、筑波大学関係者を対象に4月から始まるクレジットカード事業の準備が進んでいる。カードの名称は「筑波大学校友会カード」(写真)。通常のクレジットカードのサービスのほか電子マネーも利用できる。現在、新入生や在学中に案内するとともに、カード利用特典の協力店舗を募っている。

校友会カードを利用できるのは、筑波大の在学生のほかに卒業生、教職員など。協力店舗でカードを利用した場合は提示された場合、割引などの特典が受けられる。協力店舗は筑波大周辺の商業施設や不動産会社、飲食店など50以上になる見通しだ。事業を進める筑波大連携・渉外室の古山陽一室長は「学生生活のさまざまな場面に想定し、幅広い種類の店舗に特典への協力を依頼している」と話す。

連携・渉外室は、2月上旬にカードの発行を開始、4月から事業を始める予定だ。また、3月までに提携先の三井住友銀行のATMを学内に1台設置する。古山室長は「最初の5年間で会員数4000人が目標。多くの人にカードを使ってい」と話した。(添島香苗)

筑波お話し

寒さが一段と厳しくなってきた。春や夏、秋と比べて、白っぽい冬の景色はどこか味気なさを感じる。だが、日本の伝統色「和色」には白色だけでなくさまざまな色がある▼わずかに黄色がかった白を表す練色、灰色帯びた白である灰白色、わずかに青みがかった白の卯の花色……。300色を超える和色を考えば冬景色も違って見える。和色は、自然と寄り添いながら生きてきた日本人の情緒の豊かさも表している▼同じ「色」でも、「色眼鏡」で人や物事を見ることは歓迎されない。微妙に違う色も「色眼鏡」越しに見れば、時には単色にしか見えなくなる。そしてそれはさまざまな偏見や誤解のもとだ。「色の付いた事実」に粉れた真実がいくつあるか、想像もつかない▼昨秋の本紙調査で、学生の約9割が授業中にスマートフォンを使用している実態が明らかになった。「学生の意識が低いから」「授業が退屈なせい」などと、その見方も人により異なる。色眼鏡をかけたまま一つの見方に固執するのはなく、さまざまな議論をすることが一番の解決策になるはずだ▼幼いころ、シャボン玉でよく遊んだ。透명한石鹸水からできたシャボン玉は見る角度を変えれば変幻自在に色を変える。同じように、事実の解釈も「十人十色」だ。和色のような些細な色のパリエーションを大切にしながら、議論を進めていきたい。

誰もが暮らしやすい社会の実現へ 高齢者の声 製品開発に活用

「みんなラボ」

使いやすいさを検証

原田悦子教授(人間系)らの「みんなの使いやすいラボ(みんなラボ)」の取り組みが好評だ。高齢者にモニター試験に参加してもらい、その声を製品開発に反映。誰もが暮らしやすい社会の実現を目指す。国内外でも例がないユニークな取り組みが注目されている。(小野憲司)社会学類1年

原田教授は、携帯電話など、一度な製品がうまく使えないと日常生活を送る上で「不便」のために、高齢者の生活の質



みんなラボのホームページを背にほほ笑む原田教授=本人提供

が低下していることに着目。2011年に人間系やシステム情報系の教員と「みんなラボ」を設立した。茨城県の県南地区在住の60歳以上の男女をボランティアとして約200人集めた上で、つくば市吾妻にオフィスを設け、そこで高齢者によるモニター試験を始めた。

主な試みの一つが「使いやすい」を検証。民間企業から依頼された製品を高齢者が使っている様子や心理学的見地から分析する。

実験では、高齢者が説明書を見ながらタブレット端末を操作したり、レトルト食品を調理する様子をビデオカメラで撮影。高齢者がどのように製品を扱い、どの場面で扱いに困るか企業担当者と共に観察・分析する。その結果から、使いやすい製品へと改善するため

に、企業にさまざまな提案をする。みんなラボでは高齢者を登録する際、健康状態や価値観などを200を超える項目を調査し、データベースに記録している。企業の要望にあった参加者の抽出が可能で、製品の「使いやすさ」の原因を究明しやすくしている。昨年には、全ての人を使いやすいものづくりを目指す活動が評価され、国際ユニバーサルデザイン協会(IAUD)主催の「IAUDアワード2014」で金賞を受賞した。

「科学の芽」賞

小中高18件が受賞 ユニークな視点光る



「科学の芽」賞を受賞した小学生による研究発表

小・中・高校生を対象に、科学や自然現象についての優れた研究を募集する朝永一郎記念第9回「科学の芽」賞の表彰式が昨年12月20日、大会会館ホールで行

訃報

前筑波大学男子バレーボール部監督の都澤凡夫名誉教授が10日、脳症のためつくば市内の病院で亡くなった。66歳だった。現役時代は筑波大でバレー部の中心選手として活躍。その後富士フイルムに入社し、全日本代表候補にもなった。選手引退後、1987年に筑波大バレーボール部の監督

催事

ATGC展

「ATGC展―芸術の目から見る生物学―」が1月30日―2月4日に筑波大学総合交流会館多目的ホールで開催される。生物学に触れて感じたことを芸術作品として表現して展示する作品のジャンルは、絵画からメディアアートまでさまざま。生物学類と芸術専門学群に所属する学生の有志と村上史明助教(芸術系)によって企画開催される。

問い合わせ＝s1210557@u.tsukuba.ac.jp(代表)

詳細＝https://www.facebook.com/atgc.tenrankai/ The Location=timeline (ATGC展―芸術から見る生物学―フェイスブックページ)

筑波大学国際テニストーナメント

第5回筑波大学国際テニストーナメントが3月28日―4月4日まで筑波大学体育テニスコートで開催される。

国立大学で唯一の、世界のトップを目指すプロが集まる国際テニス大会。ウィンプルドンなど四大国際大会への登壇門となっている。大会のほかにも各種イベントを開催予定。

3月28日は午前9時から試合開始予定。観戦は無料。問い合わせ＝tsukubarutens.1@gmail.com(代表)

詳細＝http://www.tsukubarutens.com(大会ホームページ)

平成26年度卒業式・学位記授与式

平成26年度卒業式が、3月25日に大会会館講堂で行われる。9時10分開場、10時に開式し、10時55分に閉式。28日には、東京キャンパスで大学院学位記の授与式が開かれる。12時10分開場、13時開式、13時55分に閉式。問い合わせ＝so.sonuka@un.tsukuba.ac.jp(総務課)

筑波大と産総研

縦割り行政超え共同出資 「研究費のあり方を変革」

筑波大学は、産業技術総合研究所(産総研)と共同研究費を出し合い、双方の研究費で構成した研究チームが提案する共同研究に資金を提供する「産総研と筑波大との合わせ技ファンド」を設立した。従来、所管省庁の異なる研究機関が共同研究を行う場合、縦割り行政の影響で研究チームはどちらかの機関の予算しか使えなかった。だが今

回は文部科学省所管の筑波大と経済産業省の所管する産総研が1000万円の研究費を拠出。日本の共同研究のあり方を変革するとして注目されている。

筑波大は企業や研究機関との連携を強化し、昨年4月に国際産学連携本部を設置しており、今回の取り組みは同本部を中心に進められた。昨年10月には双方の研究者から構成する

チームが応募した77件の共同研究から同本部と産総研が9件を選んだ。採用された研究のうち、細胞内でエネルギーの代謝を行う器官、ミトコンドリアの詳細な動きを解明するもの。筑波大が行ってきたミトコンドリア研究に加え、産総研が持つ高精度の顕微鏡技術を組み合わせて、ミトコンドリアの分子レベルでの動きを把握す

る。老化防止に役立つサプリメントの開発などへの応用が期待されている。ファンドの設立に携わった同本部の内田彦彦課長は「省庁の壁を超えた共同研究は非常に珍しく、革新的だ。研究成果は、更に企業などに提供することで実用化が進められる可能性もある。この試みを機に、産総研の産業革新の創出が加速してほしい」と話した。

(田中開)教育学類1年

ビッグデータ分析 筑波大 研究拠点を設置

筑波大学システム情報系は1月1日、企業や自治体が持つ「ビッグデータ」を分析する研究拠点「サービクス工学ビッグデータセンター」を設置した。ビッグデータとは、商品の売り上げや、防犯カメラの映像、ツイッターのつぶやきなど、あらゆるデータの集まりを指す。データを組み合わせ、分析することで、消費者の好みを推測したり、犯罪が多い場所を特定するなど有益な情報が得られることから、近年注目されている。

同拠点では、ビッグデータを解析することで、企業や自治体が提供するサービス改善、向上を目指す。大手コンピュータ会社「IBM」がデータ解析のソフトウェアを提供するほか、産業技術総合研究所(つくば市梅園)、常総市などの地方自治体、一般企業が研究に参加する予定で、産学官の連携が期待される。分析・研究には筑波大をはじめとした大学院生も参加でき、学生は最先端のデータ解析の手法を学ぶことができる。

同拠点のコーディネーターを務める岡田幸彦准教授(システム情報系)は「ビッグデータはあまり活用されていないのが現状。データを解析し、新たなアイデアを生み出したい」と語った。英語でプレゼン競う世界大会を目指す企業の経営状況やビジネスモデルを、投資家の立場から英語でプレゼンテーションし、その説得力などを競う大会「CFA協会リサーチ・チャレンジ2014-2015」が、昨年12月5日に日本CFA協会(東京都代田区)で行われた。予選を勝ち抜いた4チームが参加し、社会

に就任し、6連覇を含む8度のインカレ優勝にチームを導いた。92年のバルセロナ五輪で活躍した中垣内祐一を始め、多くの日本代表選手を育てた。2003年にチャレンジャリーグのつくばユニテッドを設立。05年にはトップチームのつくばエナジーに入社し、全日本代表候補にもなった。選手引退後、1987年に筑波大バレーボール部の監督

つくばリサイタル・シリーズ クラリネットの音色に触れる



クラリネットを奏でる金子さん(1月13日、大学会館ホールで)

プロの奏者が演奏

つくばリサイタル・シリーズ実行委員会が主催するコンサート「第3回ドイツ・ロマン派、珠玉のクラリネット名曲集」が1月13日、大学会館ホールで行われた。目玉は、J・ブラームス作曲「クラリネット・ソナタ第一番」。会場には学内外から約160人が訪れ、ピアノとクラリネットの音色に耳を傾けた。(山野辺拓実「社会学類1年、写真も」)

つくばリサイタル・シリーズは2年前から行われているコンサート企画で、毎回プロの演奏家が招かれる。今回の演奏者は読売日本交響楽団首席クラリネット奏者の金子平さんと、音楽大学でピアノなどを指導している鈴木慎崇さん。ブラームスのクラリネット・ソナタ第一番は、流れるようなピアノと、クラリネットの精巧なハーモニーが美しい楽曲だ。観客は、プロの卓越した演奏技術と、美しい音色に魅了された。

卒業生も落語披露

即興織り交ぜ観客沸かせる

落語研究会創立40周年記念ライブ「お笑い科学万博15」が1月17日、ノバホール(つくば市吾妻)で行われた。今回のライブには、同研究会の卒業生も参加。さまざまな演目を披露し、観客を沸かした。



「鮫講釈」を演じる「立川志のぼん」さん(1月17日、ノバホールで)

立川志のぼんさんは、落語研究会員が集まり、楽しかった。40年の伝統をこれからは引き継いでいってほしい」と話した。

会長の小林陽一郎さん(化学2年)は「先輩たちの落語が自分たちの目標早く落語を上達させて、先輩たちに近づきたい」と話した。(山野辺拓実、写真も12面に関連写真)

「バベルの塔」奏でる

他団体との共演も

筑波大学吹奏楽団の第72回定期演奏会が、昨年12月12日にノバホール(つくば市吾妻)で開かれ、県内外から約600人が訪れた。

第1部ではR・シエーガー作曲「シンフォニア・ノビッシマ」や、広瀬勇人作曲「バベルの塔」など3曲を演奏。「バベルの塔」は旧約聖書の「創世記」に描かれた神話をモチーフにした、全7楽章から成る楽曲で、塔を建設する場面や人々の混乱、神の怒りなどが描かれている。さまざまな楽器が主旋律を代わる代わる演奏する同楽曲を、指揮者の佐藤拓人さん(地球3年)は緻密にコントロールし、観客を神話の世界に引き込んだ。

第2部では同演奏会の目玉である、アカペラサークルDoo-Wopと舞踏研究会とのコラボレーション

筑波大学出版会

近刊案内

筑波山から学ぶ

「とき」を想像・創造する 前川啓治編

筑波山の歴史、民俗、経済、地域づくりについて具体的に紹介する。神代から現代まで続く筑波山の存在と人々の山に対する思いで形作られた「環筑波文化圏」という視点から、筑波山の過去と未来を想像してみようか。

万葉集に筑波山を詠んだ歌が25首も収録されていることから分かるように、筑波山周辺の地域では古くから文化が育まれてきた。現在、筑波山に関する文化を再興する「筑波山ルネサンス」という取り組みが行われており、周辺地域ではジオパーク構想も進む。

本書カバー裏には、筑波山を訪ねる人向けに「筑波山麓フットパス・マップ」を掲載。マップを手に、各章で取り上げている世界を思い浮かべながら古い小道を巡れば、時間を超えた空間を体験できるだろう。

編者は筑波大学社会学系教授。A5判並製、約2000頁。1月20日刊行。2900円十税。

絶対音感

「笑み」に圧倒される公演

筑波大学の劇団サークル「劇団竹蜻蛉」の第176回公演「殺されなかつたクックロビン」が、1月10-11日に2D棟で行われた。イギリスなどの英語圏の童謡「Who Killed Cock Robin?」(誰が駒鳥殺したの)を下書きにした、約25分のショートサスペンスだ。



物語はスズメ(佐藤真琴「知識図書1年」)、ハエ(小屋香苗「日3年」)、サカナ(百生成美「同3年」)の3人の女性が、「クックロビン」という「誰か」を殺し、立ち戻らずシーンから始まる。動揺する登場人物「エ」と「スズメ」に対し、「サカナ」は平然と「死体と目撃者と犯人のいない事件にしよう」と提案。「クックロビン」は殺されなかつた」と、スズメとハエに復唱させた。

場面は変わり、スーツを着た大柄な刑事Kと田村仁「知識図書2年」がカセットテープを手に現れる。テープには冒頭の3人の、殺人をほめめかす会話が録音されている。

同公演の3人の女性が、「クックロビン」という「誰か」を殺し、立ち戻らずシーンから始まる。動揺する登場人物「エ」と「スズメ」に対し、「サカナ」は平然と「死体と目撃者と犯人のいない事件にしよう」と提案。「クックロビン」は殺されなかつた」と、スズメとハエに復唱させた。

声でじわじわと3人を追い詰めた。……。

公演を通して観客を圧倒したのは、役者の「笑み」だった。サカナが死体の隠置を提案した時、一点の曇りもない笑み。Kが3人を追いつめ、倒した時に浮かべた、自信に満ちた笑顔。そしてふとした拍子で、笑顔は真顔に変わる。「表情、感情に力を入れた」と百生が語る通り、観客に「笑み」が次々と襲いかかった。

更に「笑み」は、役者たちの立ち回りで引き立つ。サカナの場合、観客に笑顔を見せた後、ゆっくりと背を向け、2、3歩舞台の奥へ歩みながら、軽やかな声色でセリフを口にする。だがピタリと歩みを止め、ゆっくりと振り返ると、先程の笑顔はどこにも無い。公演の要所で使われたこの動きが、笑みを更に不気味に、深く仕立てあげていく。

照明や衣装にもこだわりが見える。赤、青、緑の3色の照明は、それぞれスズメ、サカナ、ハエの3人のイメージカラーに合わせた。衣装にも性格を反映させた。怒りっぽいスズメは赤のセーター。内気なハエは緑のスカート。そしてサカナは鱗をイメージさせるひし形模様の青いタイツ。舞台は監獄を彷彿とさせる格子模様仕上げ、息苦しさを押し出した。

DEAフレックス総合評価法

社会システム分析への適用

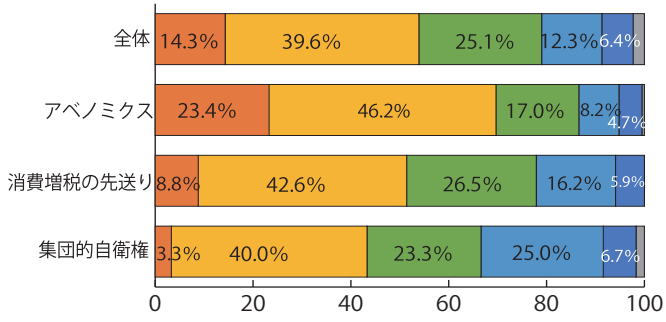
橋本昭洋著

公共機関や民間企業の効率性の分析評価のみならず、社会システム分析全般にも有効なDEA(包絡分析)のガイドブック。専門研究の成果を反映しながら、基本的な考え、評価手法、その適用の仕方、身近な事例を用いて平易に解説する。包絡分析法では、複数項目での総合評価、多様性を生かした評価、改善値の定量的な把握など、これまでの比率分析、回帰分析などでは見落とされがちであった、新たな分析結果を得ることができ、教育・研究の現場でもある大学出版会ならではの視点から、より分かりやすい構成と記述を目標とした。

著者は筑波大学社会学系教授。A5判並製、約1600頁。1月20日刊行。2900円十税。

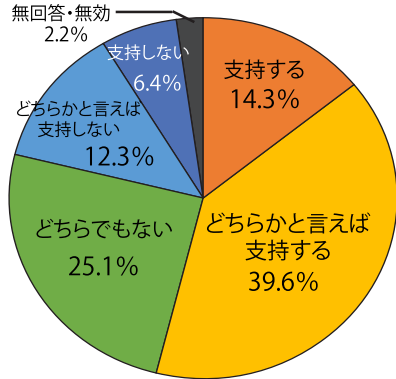
筑波大生「支持政党なし」77%

衆院選の争点と内閣支持率



参考：全国の20歳以上の男女の内閣支持率は支持する50%、支持しない32%
NHK政治意識月例調査(1月10日-12日実施)より

安倍内閣支持率



安倍内閣を「支持する」「ない」と回答した学生の「どちらか」といえるは支持する18.7%を大きく上回った。「どちらか」といえるは支持する18.7%を大きく上回った。

安倍内閣の支持 5割超

民主0.4%と低迷

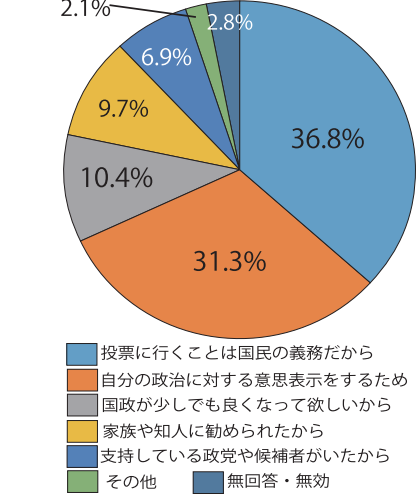
総務省の調査によると、衆院選の20歳代の投票率は1967年には66.7%だったが、12年には37.9%に低下している。また、本紙の調査では昨年12月の衆院選で筑波大生の投票率は40.4%だった。「若者の政治離れ」が問題視される中、筑波大生は政治に対してどれだけ関心を持ち、どのような意見を抱いているのか。アンケート結果や学生たちの座談会をもとに探った。(林健太郎、山野辺拓実、社会学類、添島香苗、生物学類、齋藤優斗、社会学類、佐々木優二、知識情報・図書館学類)

【投票に行く理由】「国民の義務だから」が36.8%と最も多く、「政治への意思表示が31.3%と次いだ。「国政が少しでも良くなってほしいから」が10.4%、「家族や知人に勧められた」が9.7%、「支持している政党や候補者がいた」が6.9%と多くの意見が並んだ。一方、投票に行かなかった理由は「ついでに市に住民票がないから」45.5%、「投票に行く時間がなかったから」28.9%だった。「政治に興味がないから」と答

65%が「選挙必ず行くべき」

【投票に行く理由】「国民の義務だから」が36.8%と最も多く、「政治への意思表示が31.3%と次いだ。「国政が少しでも良くなってほしいから」が10.4%、「家族や知人に勧められた」が9.7%、「支持している政党や候補者がいた」が6.9%と多くの意見が並んだ。一方、投票に行かなかった理由は「ついでに市に住民票がないから」45.5%、「投票に行く時間がなかったから」28.9%だった。「政治に興味がないから」と答

投票に行った理由



えた学生は8.1%、「投票したい政党や候補者がいない」4.7%、「自分が投票しても政治は変わらない」1.4%、「選挙権がなかった」1.4%と答えた。また、「選挙権がなかった」と答えた学生に「もし選挙権があったら投票に行っていたか」と聞いたところ、76.8%が「行った」と回答。だが実際に投票したのは40.4%だけで、選挙に行くことへの必要性は感じているものの、意識が行動に結びついていない実態が明らかになった。

【野党あり方】「野党間の連携」が11.2%だった。かたが、

政党支持率

支持政党	筑波大	全国
自民	11.7%	39.4%
民主	0.4%	9.2%
維新	1.8%	2.7%
公明	2.4%	4.0%
次世代	0.7%	0.4%
共産	1.5%	3.7%
生活	0.2%	0.1%
社民	0.9%	0.8%
その他	0.0%	0.2%
支持なし	77.3%	31.9%
無回答	3.1%	7.7%

全国の支持率データはNHK政治意識月例調査(1月10-12日実施)より

【政党支持率】安倍内閣を「支持する」「どちらか」といえるは支持する43.3%だった。一方、集团的自衛権の行使容認を争点とした学生のうち、政権を支持する「どちらか」といえるは支持する21.2%に留まり、支持政党なしの学生が71.4%を占め、無党派層の支持が目立った。一方、最大野党の民主党は支持率が0.4%と低迷し、民主離れが顕著だった。全体では「支持政党なし」が77.3%で最多だった。

◆調査方法
1月5日-9日に、学群の授業で昨年12月の衆院選に関するアンケートを実施。設問は12個。男子250人、女子187人、性別無記載17人の計437人から回答を得た。学群別の内訳は、人文・文化60人、社会・国際75人、人間10人、生命環境65人、理工40人、情報68人、医学0人、体育専門103人、芸術専門15人、院生2人、無記載が16人だった。年齢別内訳は、18歳が10人、19歳が63人、20歳が201人、21歳が122人、22歳が23人、23歳が10人、24歳が4人、25歳が1人、26歳が1人、27歳が1人、無記載が18人だった。



政治意識について語る今井さん

「未投票 一方的批判は理不尽」

中川 確かに、候補者個人の情報やマニフェストなどは、テレビだと選挙当日の順番でしか報道されませんが、若者の投票率は低下傾向にあります。酒井 投票しないという行為には何らかの理由があるはず。一方的に批判するのは理不尽です。中川 大学生は住民票が現住所にないことが多く、投票するのにかかる手間がかなりありますね。酒井 最近の若者は生活にそこまで不満を感じていません。不満があっても、初めの国政選挙で、権利を行使しないのはもったいないです。中川 私も行きました。政治に自分の考えを反映するチャンスを使ってみようと思いました。酒井 住民票が地元に行きまじった。成人し、不在者投票制度を利用しようと思いましたが、手続きがややこしかったので、投票しませんでした。今井 私は不在者投票制度を利用しましたが、やはり手続きは面倒でした。中川 選挙に必ず行くべきだと思いませんか。今井 「権利」なので個人の自由だと思えます。中川 民主主義の国なのに、投票率100%が理想。白票を入れるなど「意見が無い」という意見の示し方もあります。酒井 私と同感です。メディアは政党中心の報道になっていると思います。中川 確かに、候補者個人の情報やマニフェストなどは、テレビだと選挙当日の順番でしか報道されませんが、若者の投票率は低下傾向にあります。酒井 ニュースで話題になった時くらいですが、まだに熱い議論になります。出身地の友人よりは筑波大生のほうが政治に対する関心は高いと思います。中川 政治に関する情報はどこから得ますか。今井 衆院選の時はネットやツイッターから得ていました。情報収集が一番多く使ったのはネットですが、(衆院選時は)情勢を詳しく知るために新聞も読みました。酒井 政治の情勢については、知りたい時は新聞を使い、人の意見を知りたい時はSNSやネットを見たり、話を聞くなさっています。たまたま、SNSの情報をうのみにはしないように注意しています。中川 今後、若者が政治に



意見を交わす中川さん(左)と酒井さん

グランドスラム東京 永瀬が連覇達成

デザイン 大西美雨 (社会学類1年)

世界選手権に向け弾み

世界のトップ選手が優勝を争うグランドスラム東京2014が、昨年12月5-7日、東京体育館(東京都渋谷区)で行われ、男子81kg級で永瀬貴規(体専3年)が連覇を達成した。この大会の81kg級での連覇は史上初の快挙。準決勝で昨年8月の世界選手権の覇者、アブタン・デル・チリキンビリ(ゲルジア)に一本勝ちするなど、世界ランク上位の強豪を次々に倒した。

永瀬は初戦から三回戦まで、たまたたところで小外掛けで全て一本勝ちで駒を進め、準決勝でロンドン五輪金メダルの金幸範(韓国)と対戦。大内刈りや技ありを奪い、優勢勝ちを収めた。準決勝は世界選手権で取れたチリキンビリとの対戦。序盤は両者とも譲らず一進一退の攻防が続いたが、試合開始から2分半が経過し、延長戦に突入した。永瀬は初戦から三回戦まで、たまたたところで小外掛けで全て一本勝ちで駒を進め、準決勝でロンドン五輪金メダルの金幸範(韓国)と対戦。大内刈りや技ありを奪い、優勢勝ちを収めた。準決勝は世界選手権で取れたチリキンビリとの対戦。序盤は両者とも譲らず一進一退の攻防が続いたが、試合開始から2分半が経過し、延長戦に突入した。永瀬は初戦から三回戦まで、たまたたところで小外掛けで全て一本勝ちで駒を進め、準決勝でロンドン五輪金メダルの金幸範(韓国)と対戦。大内刈りや技ありを奪い、優勢勝ちを収めた。準決勝は世界選手権で取れたチリキンビリとの対戦。序盤は両者とも譲らず一進一退の攻防が続いたが、試合開始から2分半が経過し、延長戦に突入した。



写真:アフロスポーツ
トマに積極的に技を仕掛ける永瀬(12月6日、グランドスラム東京の男子81kg級決勝戦で)

「一分半を過ぎたところでトマに指導が入り、永瀬の優勢が決まった。永瀬は優勝の要因に積極的に技をしかけたことを挙げ、「相手に試合のペースを握られなかった世界選手権での反省を生かした」と語った。また、今年の目標については、「世界選手権に優勝すること。リオデジャネイロ五輪に向けて弾みをつけたい」と話した。

男女ともに3回戦敗退

プロの壁に阻まれる

【国立代々木競技場第一体育館(東京都渋谷区)など】大西美雨(社会学類1年)写真もバスケトボール日本一を決める全日本選手権が1月12日まで行われた。筑波大からは、昨年11月の全日本大学選手権で優勝した男子、同7位の女子ともに出場。だがプロチーム相手に苦戦し、男女とも3回戦で敗退した。



相手にフェイントをかける笹山(1月3日、全日本選手権の東京エクセレンス戦で)

男子 ■男子
代々木第一体育館で行われた3回戦で、プロリーグの2部リーグで首位を走る東京エクセレンスと対戦し、78-93で敗れた。第1ピリオド序盤から東

京に先制点を奪われると、立て続けにシュートを決められる苦しい展開に。筑波大も杉浦佑成(体専1年)を中心にゴールを狙ったが、東京の守備を崩すことができない。第2ピリオドに入ると最大18点差をつけられたが、中盤から坂東拓(同4年)が3ポイントシュートを決めるなど巻き返し、39-49で前半を終えた。

女子 ■女子
吉田健司監督(体育系・准教授)は、「プロに対し緊張したのか動きが固かった。大学1位として、3回戦で敗退してしまっただけには責任を感じる」と話した。

第3ピリオドも東京に攻め込まれたが、終盤にキャプテンの笹山貴哉(同4年)が好守から得点を挙げ、さらに終了間際には馬場雄大(同1年)のシュートが決まり、60-67と詰め寄る。だが第4ピリオドに入ると勢いは止まり、立て続けにゴールを奪われ再び突き放された。笹山や山田侑樹(同4年)ら、この大会を最後に引退する4年生が続き

第3ピリオドも東京に攻め込まれたが、終盤にキャプテンの笹山貴哉(同4年)が好守から得点を挙げ、さらに終了間際には馬場雄大(同1年)のシュートが決まり、60-67と詰め寄る。だが第4ピリオドに入ると勢いは止まり、立て続けにゴールを奪われ再び突き放された。笹山や山田侑樹(同4年)ら、この大会を最後に引退する4年生が続き

井上が初優勝 長身生かし演技

国内外の有力選手が種目別で競い合う豊田国際競技大会が、昨年12月13-14日にスカイホール豊田(愛知県豊田市)で行われた。段違い平行棒に出場した井上和佳奈(体専1年)は、3位に終わった前回大会の雪辱を晴らし、初優勝を果たした。

昨年10月の世界選手権にも出場した井上は、女子体操選手としては長身の184cmの長身と、最高2.06mにまで到達する跳躍で、相手のスパイクを強固なブロックで防ぐ。関東大学一部リーグでは、昨年の秋季、昨年の春季と2季続けてプロク賞に輝いた。昨年12月にはキャプテンに就任し、決意新たにチームを引っ張る。

幼いころから体を動かすことが大好きで、山や川で遊ぶなど活発な少女だった。バレーを始めたのは中学1年生の時。友達に誘われてバレー部に入学したことがきっかけだ。男子の先輩が打つ、強く速いスパイクに魅了された。バレーにのめり込んだ。

1.55mの身長を生かし、大きく美しい演技を披露。下り技の伸身や回宙返りを決めるなどミスなく技をこなし、13・20点を記録。2位とは0・05差という接戦だったが、減点を最小限に抑えた演技で勝利を手にした。

井上は「直前まで練習できないことが多く不安だったが、慎重に演技したことが優勝につながったと思う。今はそれぞれの技の難易度が低いので、この結果に満足せず、高難度の技を練習していきたい」と今後の抱負を語った。(油布知夏、12面に関連写真)

松浦が3連覇
跳躍で強さ発揮
全日本ラト競技選手権がつくばカピオ(茨城県つくば市)で、昨年12月13-14日に行われた。筑波大からは11人が出場し、女子個人総合で松浦佑希(体専4年)が3連覇を達成し、小出奈実(体育1年)が3位に入賞した。

顔

184cmの長身と、最高2.06mにまで到達する跳躍で、相手のスパイクを強固なブロックで防ぐ。関東大学一部リーグでは、昨年の秋季、昨年の春季と2季続けてプロク賞に輝いた。昨年12月にはキャプテンに就任し、決意新たにチームを引っ張る。



女子バレー部 新主将 帯川きよら(体専3年)

取れず太敗。猛練習したスパイクをこぼさず、マンツーマンの個人特訓に恵まれたうえ、スポーツで有利とされる左利き。これを買われ、全日本中学校選抜にも選出された。

情熱胸に高み目指す
だが、苦汁も舐めた。高校2年生の全国大会で、同大会3連覇中だった大分県の東九州龍宮高に、3回戦で1セットも

今年目標は6年ぶりとなる、全日本インカレ優勝。栄光を目指してひたむきな努力を続ける彼女の活躍が、今後の勝利の鍵だ。(林健太郎(社会学類2年、写真も)

記録ファイル

◆女子サッカー 関東女子リーグ入替戦(昨年12月27日、東京国際大学ラウンド) 筑波大0-0尚美学園大(1部残留)

◆バドミントン 全日本教育系学生選手権(昨年12月27-28日、葛飾区総合スポーツセンター体育館)女子シングルス 漆崎真子(体専4年) 優勝、大久保敦美(同2年) 準優勝、ダブルス 加藤美幸(同1年)・柏原みき(同1年) 優勝(男子)▽ダブルス 山本皓策(体専4年)・木村健太郎(同4年) 準優勝

全国大学選手権決勝 帝京大に敗れ初優勝逃す

後半意地のトライ



後半7分、トライを決める福岡 (1月10日、帝京大戦で=平嶋健人撮影)

【味の素スタジアム(東京都調布市)で山野辺拓実(社会学科1年、12面に関連写真)ラグビーの大学日本一を決める全国大学選手権の決勝戦が、1月10日に行われた。初優勝を目指した筑波大は、史上初の大会6連覇をかけた帝京大と対戦。7-50で敗れたが、2年ぶりの度目の準優勝を果たした。昨年の秋、関東大学対抗戦で開幕4連敗を喫する苦しい立ち上がりだったが、主力選手がけがから復帰すると勢いが回復。準決勝、東海大に逆転勝利するなど、4連勝で決勝まで勝ち上がった。

国立競技場の改修で、味の素スタジアムに舞台を移した決勝戦。絶対王者・帝京大の磐石の試合運びに、筑波大の持ち味である「粘り」は封じられた。前半7分、自陣ゴール前でスクラムを組んだ筑波大だが、力で勝る帝京大に押し戻されボールを奪われると、そのままトライを決められた。21分にも左サイドを突破されトライされる。続く25分にも追加点を許した。筑波大も反撃を狙ったが、帝京大の堅い守りに阻まれ得点を奪うことができず、前半は0-21で折り返した。後半序盤、筑波大がペーシングをつかむ。帝京大の反則が重なりゴール前まで迫ると、7分に左ウイングの福岡堅樹(情科3年)が混戦を抜け出しトライを奪う。後半7分、自陣ゴール前でスクラムを組んだ筑波大だが、力で勝る帝京大に押し戻されボールを奪われると、そのままトライを決められた。21分にも左サイドを突破されトライされる。続く25分にも追加点を許した。筑波大も反撃を狙ったが、帝京大の堅い守りに阻まれ得点を奪うことができず、前半は0-21で折り返した。後半序盤、筑波大がペーシングをつかむ。帝京大の反則が重なりゴール前まで迫ると、7分に左ウイングの福岡堅樹(情科3年)が混戦を抜け出しトライを奪う。

スタンドから最後まで声援

「来年こそ日本一に」

観客の声



(上) ブルーの旗を振り声援を送る観客 = 田中開撮影 (下) 試合後、トロフィーを手に出場選手をねぎらう部員たち = 森脇慎撮影

【味の素スタジアムで鈴木拓也(人文3年、田中開11教育1年)「来年こそは日本一の筑波が見たい」。2年ぶりの帝京との決勝。初優勝がかかる注目の一戦に、大勢の筑波ファンが味方の素スタジアムに詰めかけた。結果は7-50と優勝は逃したものの、観客は最後まで応援を続けた。主将の松下真七郎(体専4年)など、友人が数人出陣していた草内浩紀さん(同4年)は、終始前列から声援を送った。「今日は思ったように試合を進められなかったかも知れないが、ここまで勝ち進んだことに本当に感動した。心か

点差が開いても最後まで諦めず食らい付く姿勢に胸が熱くなった」と、優勝には届かなかったが、健闘をたたえる声が目立った。卒業生も多く駆けつけ、物理学科の卒業生で東本代表の福岡堅樹(情科3年)を中心に一矢報いる活躍を祈った。また社会工学科の卒業生で都内在住の林穂菜さん(31)は「後半の立ち上がりや福岡のトライなど、力に差がある中でよく戦い続けたと思う。母校の後輩が日本一をかけて戦っている姿を見ると、エネルギーをもらえる。来年こそは日本一になってほしい」と、来年以降の躍進に期待を寄せた。

準決勝 残り10分で劇的逆転

【秩父宮ラグビー場(東京都港区)で山野辺拓実(社会学科1年、写真も)1月2日に行われた東海大との準決勝。残り10分で3-16と突き放された状況から逆転し、17-16で勝利した。劇的な幕切れにスタジアムは熱狂に包まれた。前半、筑波大は東海大の守備に苦戦。キックオフ直後から東海大のゴール前までラインを進めるも、得点できない。逆にミスから東海大にボールを奪われると、自陣ゴール前まで一気にラインを押し込まれ、9分にドロップゴールで3点を先制された。31分には守備の薄い左サイドにボールを運ばれトライを許し、40分にも失点。後半に入り、7分にペナルティゴールをフルバックの山下(体専



タックルを受けつつも果敢に攻める山下 (1月2日、東海大戦で)

古川拓生監督(体育系)は「選手一人一人がしっかりと切ってくれた。終盤の10分だけではない、80分通して素晴らしい集中力を発揮したことで、最後の最後でチャンスをつかめた」と選手をねぎらった。ゲームキャプテンの左フランカー水上彰太(体専4年)は「攻める」と選手全員が意志統一できたからこそ逆転できた」と話した。

記者の目

筑波大が初めて決勝に進出した一昨年と、今年の全国大学選手権の流れはよく似ている。両年も準決勝の東海大戦で試合終了間際に逆転勝利し、決勝では帝京大に敗戦。だが、中身は異なる。その違いを古川拓生監督(体育系・准教授)は「勢い」と語る。

一方「今年は実力で勝ち取った決勝進出だった」と古川監督は胸を張る。対抗戦では主力選手の負傷離脱もあり、初戦から4連敗と苦しんだ。だがそれがかえって功を奏した。本来は試合に出られない選手が出場して経験を積み、チーム全体の実力の底上げに成功した。また、自分たちのプレーを振り返り、タックルなど相手との「接点」の練習を徹底的に行い、

「昨年とは勢いで勝って進んでいた」。対抗戦1位、大学選手権決勝進出と創部史上初の快挙が続いた。決勝の舞台でも、当時も圧倒的な力を誇っていた帝京大に、試合を重ねる中で生まれた勢いで挑んでいった。

「昨年とは勢いで勝って進んでいた」。対抗戦1位、大学選手権決勝進出と創部史上初の快挙が続いた。決勝の舞台でも、当時も圧倒的な力を誇っていた帝京大に、試合を重ねる中で生まれた勢いで挑んでいった。

チームの「勢い」足りず苦戦

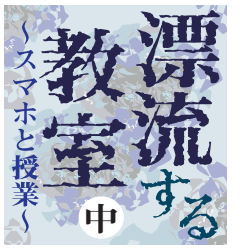
サポーターと共に悲願果たせ

「昨年とは勢いで勝って進んでいた」。対抗戦1位、大学選手権決勝進出と創部史上初の快挙が続いた。決勝の舞台でも、当時も圧倒的な力を誇っていた帝京大に、試合を重ねる中で生まれた勢いで挑んでいった。

「昨年とは勢いで勝って進んでいた」。対抗戦1位、大学選手権決勝進出と創部史上初の快挙が続いた。決勝の舞台でも、当時も圧倒的な力を誇っていた帝京大に、試合を重ねる中で生まれた勢いで挑んでいった。

「昨年とは勢いで勝って進んでいた」。対抗戦1位、大学選手権決勝進出と創部史上初の快挙が続いた。決勝の舞台でも、当時も圧倒的な力を誇っていた帝京大に、試合を重ねる中で生まれた勢いで挑んでいった。

円滑なグループ学習目指す 「主体的な学び支えたい」



東京電機大の 「試み」

「教員は学生に知識を与えるだけでなく、学生の学びを支援していくべきだ」。東京電機大学(東京都足立区)で木村敦・同大助教(心理学)が担当する「ITコミュニケーションと社会」という授業は、この立場に立って展開されている。学生からの評判も良く、この授業について報告した自身の論文も高い評価を得ている。

「ITコミュニケーションと社会」は、IT技術を



「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

相次ぐ学生の盗難被害 「犯罪が起きない環境を」

筑波大生の財布や現金、自転車の盗難被害が続いている。学生生活課は「犯罪が起きない環境を作ることが大切だ。防犯意識を高めてほしい」と注意を呼びかけている。

現金の盗難では、昨年12月17日、学生が中央図書館2階の学習スペースの机に財布を置いたまま近くのフアで仮眠していたところ、財布から現金2万円が盗まれた。

また体芸エリアの食堂では、今年1月14日に現金の

盗難が発生。財布を机に置き忘れた学生が支援室に問い合わせたところ、財布は見つかったが、中に入っていた現金約3万円が盗まれていた。このほかにも、紛失したり、置き忘れたままの財布から現金が抜き取

られる例が相次いでおり、4万円を盗まれた学生もいるという。

一方、自転車盗難は12月中に学内で7件、春日地区のアパートで1件発生。うち5件が無施錠だった。つくば中央署は「無施錠の自転車の盗難は容易で、犯人に狙われやすい。安全な社会を作るため、学生一人ひとりが意識してほしい」と指摘した。

(栗山菜帆子)

卒業する学生の自転車 今年も回収し販売へ

筑波大学は、卒業する学生の自転車を回収・整備し、新入生に販売する取り組みを今年以降も続けていく。学生が卒業に際し学内に放置している自転車を減らすために、昨年は約100台の自転車を回収。うち販売したのは、壊れていて使えない物を除いた約10台。学

生生活課は「放置自転車を減らしリサイクル自転車を増やしたい」と話し、学生に協力を求めている。

同課では昨年、回収した自転車を、学生宿舎入居時に各宿舎の共用棟で一台3000~5000円で販売した。販売した自転車は

道路交通法令に基づき「安

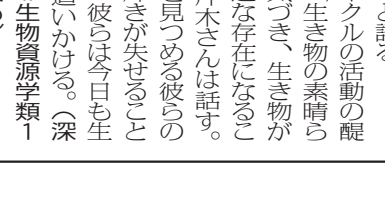
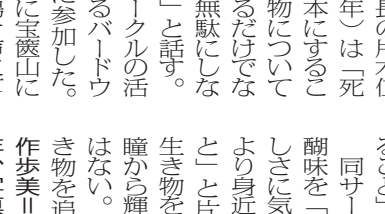
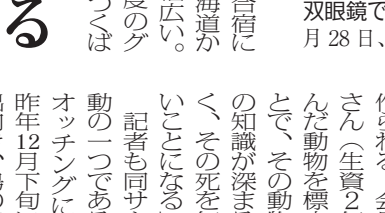
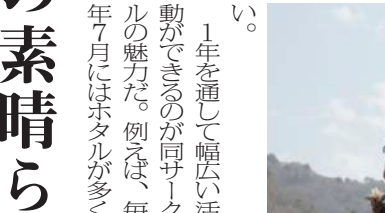
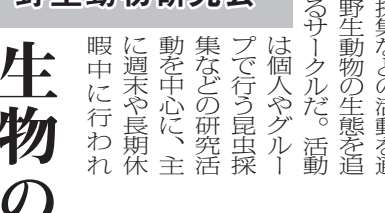
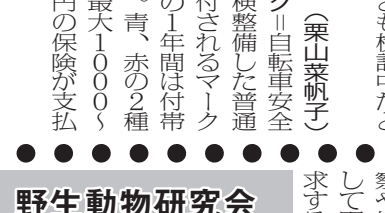
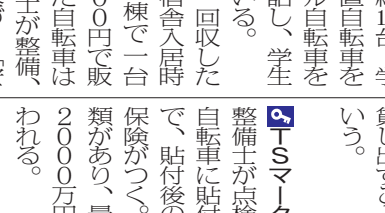
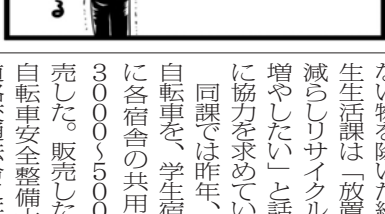
全な自転車」であることを確認し、TSMマークを貼って安全性を保証している。

同課は今年も2月上旬と卒業式の前後に、学生会館で自転車を回収する予定だ。回収数が今後増えれば、短期留学生などに自転車を貸し出すことも検討中だという。

(栗山菜帆子)

(栗山菜帆子)

琴ちゃんせんせい



野生動物研究会

生物の素晴らしさ知る

野生動物研究会は、観察や採集などの活動を通して野生動物の生態を追求するサークルだ。活動は個人やグループで行う昆虫採集などの研究活動を中心に、主に週末や長期休暇中に行われ

る。1975年に設立された歴史あるサークルだ。会員は25人。鳥類、昆虫、は虫類など自分が好きな生き物を「専門」に追いかける会員が多

い。長期休暇中には合宿で行く。行き先は北海道から奄美大島まで幅広い。現地では4人程度のグループに分かれ、つ

は、古石氏は「EU各国の学生は、2つの外国語を学ぶのが当たり前。しかし、日本では英語を学ぶことの意義ばかりが強調され、第二外国語を学ぶことの重要性が高まっている。(学生には)英語のほかにもう一つ外国語を学び、世界で活躍できる力をつけてほしい」と語った。

実行責任者の一人である小松祐子准教授(人社会系)は、「複数の言語を学べば、多様な視点から世界を見ることもできる。また言語能力には共通した部分があるので、第二外国語を学ぶことは既習の言語の上達にも役立つ。今後もイベントを開催し、第二外国語を学ぶことの大切さを学生に伝えていきたい」と語った。(廣岡里穂 人文学部1年)

にはいない生き物の観察や採集に取り組む。花火や海水浴などのレジャーには見向きもせず、朝から晩まで「生き物漬け」。彼らの生き物に対する情熱が伝わる。

活動する生き物の数が少なく冬には、骨格標本作りを行う。使つのは死体で発見された鳥など。骨格標本は、死体の全長や尾の長さなどを測定し、解剖。骨についた肉を除去し、組み立てて作られる。会長の片木仁さん(生資2年)は「死んだ動物を標本にすることで、その動物についての知識が深まるだけでなく、その死を無駄にしないことになる」と話す。

記者も同サークルの活動の一つであるバードウォッチングに参加した。昨年12月下旬に宝篋山に向き、鳥の鳴き声に耳



双眼鏡で野鳥を観察する会員たち(12月28日、宝篋山で)



入り口には鳥のはく製、棚には骨格標本や昆虫標本、隅には魚が泳ぐ水槽……。文化系サークル館階にある野生動物研究会の部室からは、生き物の息遣いが聞こえる。

同課は今年も2月上旬と卒業式の前後に、学生会館で自転車を回収する予定だ。回収数が今後増えれば、短期留学生などに自転車を貸し出すことも検討中だという。

(栗山菜帆子)

(栗山菜帆子)

(栗山菜帆子)

(栗山菜帆子)

(栗山菜帆子)



ノーベル財団理事長講演 「基礎研究 軽視しない」

ノーベル財団を主催するノーベル財団「UNICO」のカール・ヘンリック・ヘルディン理事長を招いた講演会と対談が、筑波大学長主催で1月14日、大学会館で開かれ、定員150人の会場は学内外からの来場者で満席になった。

(佐々木優二 知識情報・図書館学類3年)

理事長は「ノーベル賞と科学の発展」をテーマに講演。賞の選考の様子や過去の受賞者とその功績、またノーベル財団が行う事業などについて説明した。

その後、理事長は「どこまで知っているか」「日本の生命科学分野についてどう思うか」という質問には、「日本の生命科学には山中伸弥・京都大学教授(2012年ノーベル生理学・医学賞受賞)がおり、山中教授の審査の時に重視する点は何か」と質問。著名ながん研究者でもある理事長は「基礎研究の軽視はな

一方、来場者の「日本では論文不正が問題になっていくが、世界から日本の科学はどう見られているか」の質問に理事長は「不正防止のために、厳格な基準が必要だが、不正は世界中にある」と回答。また「ノーベルの発明したダイナマイトのように、発見が戦争に利用される場合もあるがどう思うか」という質問には「研究に良い悪いはない」と、発明や研究の「悪用」はあくまで結果論との見方を示した。

本紙に対するヘルディン・ノーベル財団理事長の他の発言内容は以下の通り。(福原樹樹)

賞への批判

賞には①死者は受賞できない②受賞までの期間が長すぎる③数学賞がない……など数々の批判がある。だが、④はノーベルの遺言に従ったもので、変更できない。また①については、もし死者の受賞を認めれば候補者が莫大な数になり選定も難しくなるだろう。

基金の財政

ノーベルの遺産は彼の死後減り続けたが、財団は60年代以降、株式投資なども行い、利益を得てきた。90年代は好況でもあり(将来の運用に)樂觀だったが、2000

年代になると賞を続けるための資金が十分でないことが明白になった。(12年の賞金減額はこのためだが)この年は満足の形で基金が増加しており、賞金を元のレベルに戻すことを考えている。

ノーベル賞の意義

賞は過去100年以上の間、ノーベルの遺志を継ぎ、国籍に無関係に人類に貢献した人に与えられてきた。科学面で最も歴史がある主要な賞であり、何年にもわたり(賞金でも)世界最高レベルだった。また、選考委員会は賞に値する科学者を採り出すのに最大の注意を払ってきたと思う。

バイオeカフェ 菌などの研究成果講演 参加者同士で意見交換も



講演の合間、テーブルトークで積極的に意見交換する参加者たち (1月6日、総合研究棟Aで)

生物学類と生命環境科学研究所が主催するイベント「バイオeカフェ」が1月6日、総合研究棟Aで行われた。88回目となる今回は、「ほく」の好きなカビと昆虫をめぐる菌と題して出川洋助教(生環系)が講演。学内外から約40人が訪れた。

出川助教は、菅平高原実験センター菅平菌学研究室(長野県上田市)でさまざまな菌を発見し、菌の分類や、胞子が発芽してから成長し再び胞子を作るまでの研究の過程(生活史)の研究に取り組んでいる。講演では、ある菌の生活史を初めて解明したことや、筑波大の本部棟付近にも生息する昆虫「ヒゲシロハサミムシ」の腸内から新種のカビを探し出したことなど、研究の成果について失敗談や苦労話をするなどユーモアを交えながら話した。

講演の合間には、参加者同士が意見を交換する「テーブルトーク」の時間が設けられた。参加者は、「胞子の複雑な形の理由」や「ある胞子に特徴的な形の機能は何か」をテーマに、活発に意見を交換していた。

同助教は講演後、「来場者の」発想がユニークだったので、自分が気付かなかったことを指摘され、驚いた」と語った。

来場した男子学生は「さまざまな学類の人が参加していたので、テーブルトークの時に自分では思いつかない考えを聞いて良かった」と話した。

(深作歩美、写真も)

「夢の中に入りたい」とつぶやく小児がんと戦う少年。「あの星座、知ってる」と歓声を上げる車椅子や年配の入院患者たち。昨年3月、筑波大学附属病院の食堂で行われたイベント「星の降る夜」では、スクリーンに皆が見入っていた。

見慣れた病院の食堂をプラネタリウムに変えたのは、筑波大学のボランティアグループ「UNICO」(ユニコ)。

2013年10月に発足した後、社会貢献プロジェクトの一環として活動を始めた。宇宙や星を使って人々に癒やしと元気を届けることを目的とし、附属病院やつくば市内の

病院をプラネタリウムに

星で心のケアを

小中学校を中心にプラネタリウムや天体観望会、星座についてのお話などのイベントを行ってきた。

イベント「星の降る夜」では、食堂の片隅を暗幕で囲み、病院のシーツをスクリーンにして星を投影。神秘的な音楽を背景に、ギリシャ神話や逸話を交えながら星座を紹介した。点滴をした人、車椅子に乗った人など集まった患者は30人以上。発足後初めてのイベントだったが、あまりの盛況ぶりに時間を延長した程度だった。

上映が終わると、「すごく綺麗だった」「私も星座の勉強をした」と患者たちは興奮した様子で語った。中には数日後、集中治療室に移る小児がんの子ともいた。その子の母親は「個室に移っても



病院の食堂に作られた手作りのプラネタリウムに見入る参加者たち = UNICO 提供

「ほく」が筑波大入学前に働いていたころの経験だった。患者の多くが、安静を保つために一日中ベッドの上で真っ白な天井を見つめていたのだ。そこで高村さんは「病院の星を見て安らぎを感じ、自分一人ではないと感じてほしい」とグループを結成。その後、物理や医学、芸術などさまざまな分野に精通するメンバーが集まり活動を開始した。宇宙や星についての知識がある人ばかりではないが、それぞれの経験を生かしてイベントを行っている。

今後は、病院での活動に加え、児童養護施設や介護福祉施設などのイベントも行っていく予定だ。介護が必要な人の入浴を手伝う際に、浴室の天井に星を映し、リラックスマスしてもらう新しい企画案も出ている。「星の魅力は、知識がない人も奇麗に感じられるところ。プラネタリウムなどを開催することで、患者さんの心のケアに役立てばうれしい」とメンバーは話す。病院に輝く無数の星々。その不思議な魅力は人々の心を癒やし、笑顔を生み出していく。

(油布知夏二 人文学類2年、12面に関連写真)

ユダヤ人迫害の歴史に学ぶ

ユダヤ人はゲット(強制居住区域)や強制収容所に送り込まれ、多くの命が失われました。ユダヤ人だけでなく、ポーランド人やロマ、同性愛者



友人とほほ笑む三藤さん(左)(昨年10月、ポーランドの植物園で) = 本人提供

ユダヤ人はゲット(強制居住区域)や強制収容所に送り込まれ、多くの命が失われました。ユダヤ人だけでなく、ポーランド人やロマ、同性愛者

ユダヤ人はゲット(強制居住区域)や強制収容所に送り込まれ、多くの命が失われました。ユダヤ人だけでなく、ポーランド人やロマ、同性愛者

ユダヤ人はゲット(強制居住区域)や強制収容所に送り込まれ、多くの命が失われました。ユダヤ人だけでなく、ポーランド人やロマ、同性愛者

ユダヤ人はゲット(強制居住区域)や強制収容所に送り込まれ、多くの命が失われました。ユダヤ人だけでなく、ポーランド人やロマ、同性愛者



ヤゲウォ大学 (ポーランド)

三藤紫乃

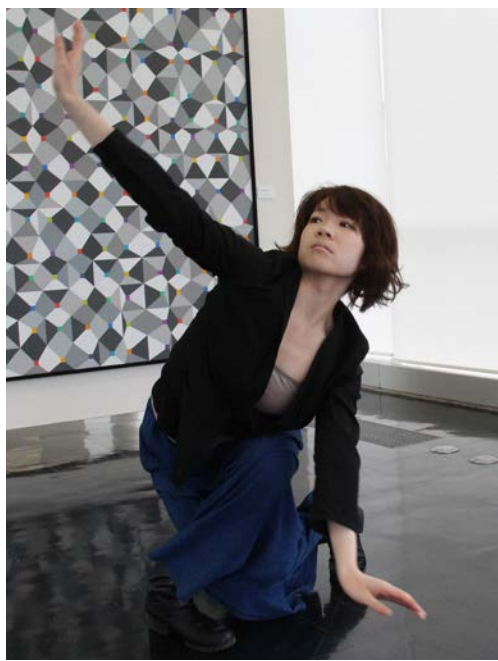
「なんでポーランドに留学するの?」。私が留学を決めた時、多くの人々に聞かれました。留学を決めたのは、昨年の秋のこと。幼いころに「アネの日記」を読んで衝撃を受け、ヨーロッパの戦争の歴史、特にナチスドイツのユダヤ人迫害の歴史に興味を持ち、ポーランドで学びたいと

ユダヤ人はゲット(強制居住区域)や強制収容所に送り込まれ、多くの命が失われました。ユダヤ人だけでなく、ポーランド人やロマ、同性愛者

Who's Who?

ダンスの国際振付コンクールで日本人初のグランプリ

幅田 彩加 さん (体育2年)



ダンスを披露する幅田さん (1月21日、大会館で) = 原啓一郎撮影

昨年11月にベラルーシ・ヴィテブスクで行われた第27回国際モダンバレエコンクール「グラフィック・スタイル」で、伊藤湖太郎さん(平成23年度心理学類卒)とペアを組み、日本人初のグランプリを受賞した。数あるダンスのコンクールの中でも最大規模のもので、1位の更

に上の賞としてグランプリが授与される。受賞者無しに終わることもあるほど、受賞は難しい。「まさかグランプリを受賞できるとは思っていませんでした。自分の中では、異なるジャンルのダンスを組み合わせた面白いダンスだったため、それを賞してほしい」と振り返る。

創作ダンスは決まった振付がなく、創作者が「から表現を作る。日本ではまだまだ一般的ではないが、世界中に根強いファンがいる。ベラルーシで行われた決勝大会の会場は満席。世界の舞台は初めて、海外で自分のダンスが通用する不安もあったが、「決勝の舞台は緊張より楽しさが勝っていた」とほほえむ。「育った環境、文化や価値観を超えて、心で自分の表現したいことを訴えることができた」

横濱市出身。友人にダンススクールに誘われ、8歳でモダンダンスを始めた。モダンダンスは決まった動きのルールがなく、思いを自由に表現できる。それが自分に合っており、夢中になった。次第に力がつき、国内の名高いコンクールで入賞するまでに。しかし常に私は何のために踊るのかわからず、目的を模索し続けていた。更にダンスの世界に導いてくれた友人を小学生のころに、そして心の支えだった母親を高校生に亡くした。「ダンスも勉強も人の3倍頑張らなくて、友人や母親の分も私が生きよう」と心に決め、ダンスをはじめあらゆることに

文化を超えて思いを伝える 日常をダンスの題材に

食欲に打ち込む日々が続いた。筑波大学入学後はダンス部に入部。多くの仲間に出会った。彼女らとダンスを創るうちに、「二人でダンスを創っていたころよりも視野が広がった」。そんな中、ダンスの本当の魅力に気づいた。文化や国境を超えて自分の思いを伝えたり、見る人に感動を与えることだ。「本当の魅力が分かったら、ダンスを心から楽しめている」と語る。友人たちは現在、海外でプロとして活躍したり、地域の子ども向けにダンススクールを設立している。時々連絡を取り、励まし合ったり刺激を受けている。

昨年の11月の大会でペアを組んだ伊藤さんと、大学1年生の時に出会った。彼は筑波大のダンスサークルReal Jamに所属していた。伊藤さんは年末年始から、ダンス部とReal Jamが共用する筑波大のダンス場で、「一人汗だくになって踊るほどの熱心なダンサー。その一生懸命な姿が印象に残り、ペアを組んだ。今回の作品では、細かい動きまで手足の角度を決めたり、動きのブレをなくすことになった。本番前には「楽しもう」と励まし合った。グランプリ受賞直後は実感が湧かなかったが、周囲からおめでとうと声をかけられ、二人で「本当にグランプリになったんだね」と笑い合った。

休日には美術館に行ったり、映画を観て過ごす。映画を観る際には、出演者の姿勢や動作を細かに観察。「気が付くと、友人の何気ないしぐさもじっと見てしまう」。日常生活の中から、無意識にダンスの材料を探している。

グランプリ受賞をダンス人生のゴールにはしない。「今回の受賞をきっかけに、今後もいろいろなダンスを創作していきたい」。彼女の生み出すダンスは、これからも世界中の人々の心を動かしていくだろう。(大西美雨 社会学類1年)

落語研究会 40周年記念ライブ



大喜利を披露する研究会員たち (1月17日、ノバホールで) = 山野辺拓実撮影

5面へ

全日本大学選手権決勝



ボールを取り合う両校の選手たち (1月10日、帝京大戦で) = 平嶋健人撮影

8面へ

全日本ラート競技選手権



斜転の演技を披露する松浦佑希 (昨年12月14日、つくばカピオで) = 本人提供

9面へ

社会貢献プロジェクト



望遠鏡を覗き込む参加者たち (昨年9月3日、筑波大学附属病院で) = UNICO提供

10面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活



Facebook
はじめました!

筑波大学新聞の公式Facebookページができました。新聞の発行日や設置場所、最新号の見どころをお知らせしていく予定です。読者の皆様のご意見もお待ちしております。検索エンジンで「筑波大学新聞 Facebook」などで検索するか、以下のQRコードを携帯電話・スマートフォンなどで読み取ってください。

また、筑波大学新聞のバックナンバーは以下のURLでご覧いただけます。
https://www.tsukuba.ac.jp/public/newspaper/shinbunindex.html



次号は

4月6日(月)

発行予定です